

しらべたことを つたえよう

「いろいろな ふね」(東京書籍)

本単元で育成する「21世紀型スキル」

◎コミュニケーション力・表現力

1 単元設定の理由

【単元について】

本単元は、小学校学習指導要領国語第1学年及び第2学年の目標及び内容C(1)ウを受けて設定したものである。

地域の海を行き来する船や興味のある船について、図鑑や科学的な読み物などを使って調べ、ワークシートに整理するという活動を通して、文章の中の重要な語や文を考えて選び出す力を育成することができる。また、調べたことをクラス内のグループや他学年の児童生徒にクイズとして発表することで、本校が目指す「21世紀型スキル」のコミュニケーション力・表現力を育成するのに適した単元といえる。

【児童の実態】 1年1組13名(男子5名、女子8名)

①本単元にかかわる児童の実態

「国語の授業が好き」と回答した児童は84%と学習意欲が高いが、1学期の説明的な文章の学習では、教科書本文から必要な語や文を抜き出すことができた児童は76%だった。さらに、教科書以外の本から自分に必要な語や文を選び出すことが難しいという実態もある。

②学校図書館活用にかかわる児童の実態

アンケート項目「本や資料を活用して調べるようにしています」について否定的評価が25%であり、本を使って調べる楽しさや面白さに気付いていない児童がいることが分かった。

【指導に当たって】

- ・導入前に、乗り物が登場する絵本等で「考え聞かせ」を行い、「何をするための乗り物なのかな」「どこからそう思ったのかな」と問いかけて考えさせる。本文から語や文を抜き出す手がかりとなる「やく目」と「つくり」の観点を予め与えて考えさせておくことで、一人一人が自分の意見をもつ基盤づくりをしておく。
- ・スムーズに本文を理解できるようにするために、本文から抜き出した言葉をフラッシュカードにして、言葉のまとまりを認識させたり意味を理解させたりする。
- ・導入では、地域の海を行き来する船に注目させることで、船への興味関心をもたせる。また、単元全体を通して、「なにを するための ふねなのかな？」という問いを設定する。単元前半でこの問いを示すことで、主体的に本や資料を使って調べる意欲を高める。
- ・図鑑以外にも科学的読み物や絵本などを準備し、一人一人がいろいろな本や資料に触れられるようにしておく。また、本で調べることは難しいことではなく楽しいことだと感じられるように、児童が本を選んだり読んだりする際には、担任以外の教諭や学校司書も参加し、一緒に活動する時間を設定する。
- ・調べたことは「やく目」「つくり」「できること」の3つの観点でワークシートに整理させる。
- ・児童が自分に必要な語や文を選び出せるようにするために、まず、絵や写真から乗り物の造りに注目させて「何をするための乗り物か」という役目を予想させる。その予想をもとに乗り物に関する本を読ませることで、予想した言葉やそれに関連した言葉に注目し、必要な語や文なのかを児童が判断できるようにしたい。
- ・クイズは「やく目」を問う問題とし、ワークシートにまとめた3つの観点をクイズの答えや説明として利用する。クラスや他学年への発表を通して、本校が目指す「21世紀型スキル」のコミュニケーション力・表現力の育成を図る。

【単元の目標】

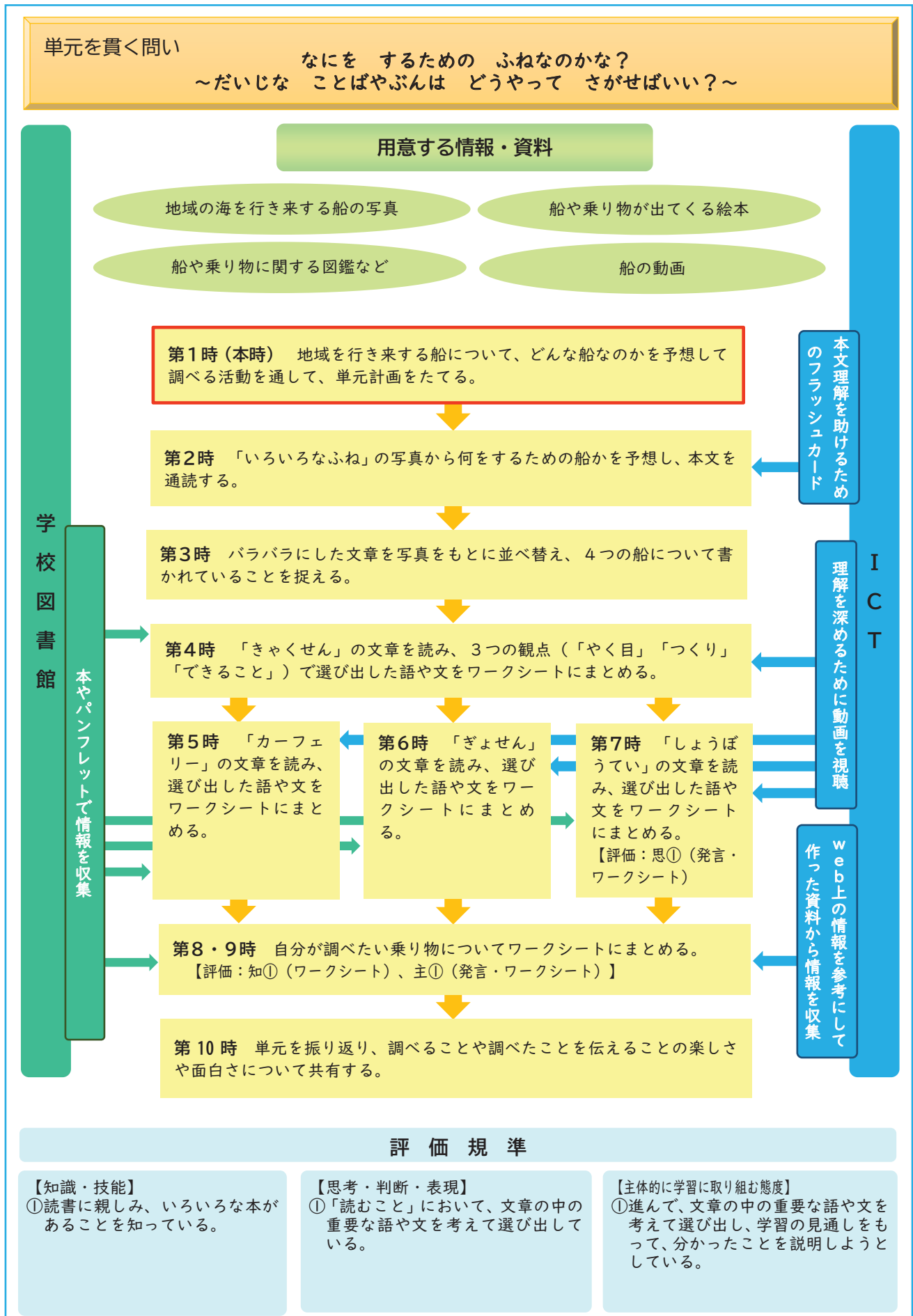
○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。

【知識及び技能】(3)エ

○文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 【思考力、判断力、表現力等】C(1)ウ

○言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

2 単元構想図（指導と評価の計画）



3 本時の学習（本時1/10時）

(1) 本時の目標

○船の写真をもとに何をするための船なのかを本で調べる活動を通して、本には絵本以外にも読み物や図鑑などいろいろなものがあることを知ることができる。

(2) 準備物

- 船に関する絵本や読み物、図鑑などの本
- ワークシート

(3) 学習の展開

学 習 活 動	指導上の留意事項（○）及び「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て（◆）	評価規準（評価方法）及び学校図書館・ICT活用のポイント
<p>1 写真を見て、何の船かを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗ったことある。フェリーだよ。 ・このピンク色の船は何かな。 ・フェリーのところで見たよ。 ・うわぁ、大きい船だ。 <p>2 本時の課題と流れを確認する。</p>	<p>○まずは、大久野島へ行く際に乗ったフェリーや町探検で見た漁船の写真を取り上げ、発言しやすい雰囲気になるようにする。</p> <p>○大久野島へ行く際に見たピンク色の客船や学校から見たタグボートなど、児童が興味関心をもって調べられるものを取り上げるようにする。</p>	<p>学校図書館活用のポイント 学校司書が、児童の本選を支援する。</p>
<p>なにを するための ふねなのかを しらべよう。</p>		
<p>3 何をするための船なのかを予想し、ワークシートに記入する。</p> <p>4 予想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二階があるよ。ここから海の景色を見られると思います。 ・箱みたいなものがたくさん載っているから、これを運ぶ船だと思います。 ・何をするための船かは分からなかったけど、前の方にタイヤがたくさんついているのを見つけました。 	<p>○「先生が出した質問に答えたい。」という気持ちになるような言葉掛けを行い、学習課題を全員でつくる。</p> <p>○調べたい船を一つ選び、写真を見て自分で予想を立てさせる。</p> <p>◆困っている児童には、本人の思いを聞いて予想が立てられるようにする。</p> <p>○写真を指差しながら意見と理由を発表させるようにする。</p> <p>○意見だけで終わっている場合は、「どこからそう思ったのですか。」と問いかけ、意図的に「つくり」の観点を引き出すようにする。</p>	

5 本を使って調べる。

- ①一人で調べる。
- ②友達と交流して調べる。

6 調べた結果を発表する。

- ・窓がたくさんついているから、客船じゃないかな。
- ・景色を見る観光船にも似ているよ。
- ・客船は人を乗せて運ぶための船って書いてあったよ。
- ・外国に行くすごく大きい客船もあったよ。

- ・前の方にたくさんタイヤがついているからタグボートかな。
- ・絵本にも船を引っ張っている絵があったよ。
- ・港の中を安全に行き来するように手伝う船って書いてあったよ。

7 学習を振り返るとともに、次の学習の見通しをもつ。

- ・船のことが書いてある本ってたくさんあるね。
- ・絵本にも詳しく書いてあったよ。
- ・ほかの船もクイズにしてみたいな。

○担任や学校司書と一緒に本を選んだり調べたりして、楽しんで活動できるようにする。一人で調べた後は、友達と自由に会話させながら活動することを認める。

○児童が調べた内容を船ごとに発表させ、本によって書かれている内容が異なっていることに気づかせるようにする。

○はっきりとしないことは、「？」としておき、今後の課題とする。

○調べる方法として、インターネットや人に聞きに行く方法もあることを伝える。

○学校司書に、調べるための本は本時に利用した本のようにいろいろな種類があることを伝えてもらう。

○調べたことはクイズにして、クラスの友達に問題を出すことをゴールにしよう提案する。

○クイズの答えをどう作ったらいいか、教科書の「いろいろなふね」で勉強することを確認する。

学校図書館活用のポイント
図鑑だけでなく、絵本、読み物など、様々な種類の本を準備しておく。

ICT活用のポイント
本だけでは分からなかったことは、インターネットを使う方法もあることを伝える。

(4) 板書計画